

雑草化する帰化植物

— 離弁花類 —

全国農村教育協会 広田 伸七・村尾 宵二・天野斗史子

農耕地や路傍、あき地などでしばしば“おやっ”と思う帰化植物に出会うことがある。ある調査によると都会地やその周辺に生育する野生植物の種の約80%は帰化植物で占められ、その種類数は約800種に達するといわれている。

ハルジオンやヒメジョオンなど明治時代に渡来し100年以上経過して、今では最も普通の雑草となっているもの、大太平洋戦争後に帰化して広がったセイタカアワダチソウやセイバンモロコシなどから、最近各地で目立つようになった

ウラジロチチコグサ。また、かつては工芸作物や園芸品種として導入し、栽培されたものが逸出して野生化し、ついには雑草化したものなど多種多様の帰化植物がある。

そこで、一般の植物の本ではあまり記載されていない帰化植物を図を使って紹介する。

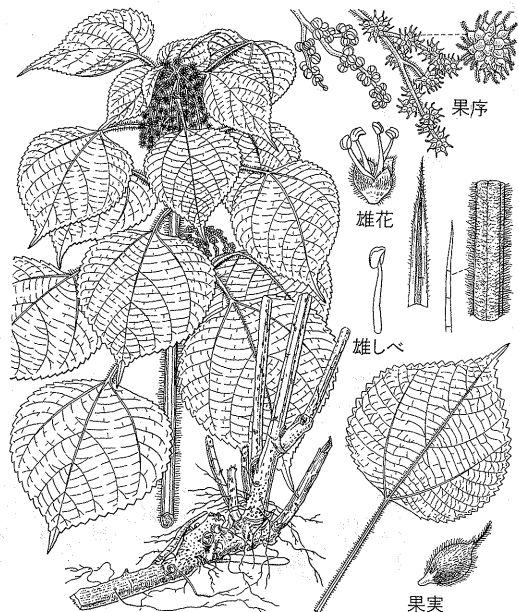
なお、本稿は「日本山野草・樹木生態図鑑」（全国農村教育協会発行）より転載したもので、図鑑にはカラー写真と図で記載してあるので、詳細は図鑑を参照されたい。

ナンバンカラムシ〔イラクサ科〕*Boehmeria nivea* Gaudich.

夏緑生多年草。成長期間は4～10月。

アジア大陸原産。繊維が非常に丈夫で繊維をとるために古くから栽培されたが、最近は野生化し、路傍や耕地周辺に群落をつくっている。地下茎が横にはい、そこから茎が立ち高さ1～2m、径約8mmと太く、葉は互生し卵円形、長さ10～18cm、幅9～16cm。縁に整った鋸歯がつき、表面には短い毛がありざらつき、裏面には綿毛が密生して白色。8～9月に茎上部の葉腋に花序をつける。上部は雌花、下部は雄花で雌花は小さい球状に集まる。在来種のカラムシに似ているが全体が大型である。地下茎と種子で繁殖するので一度入り込むと厄介な草となる。

〔生活型〕 Ch R₃ D₄ e

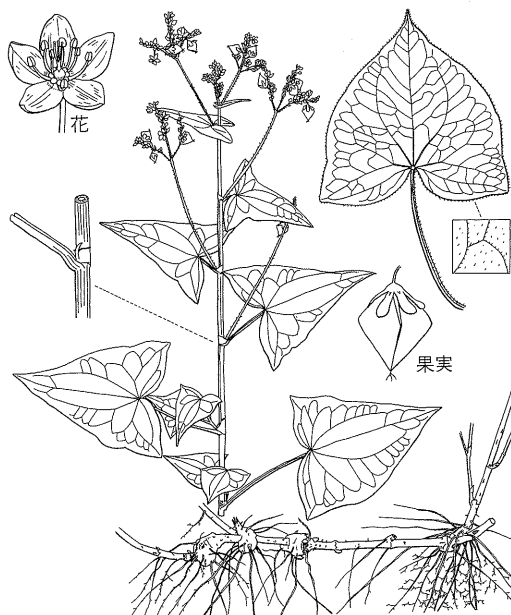


シャクチリソバ(シュッコソバ)〔タデ科〕*Fagopyrum cymosum* Meisn.

夏緑性多年草。成長期間は4～11月。

インド北部、中国原産。血管補強剤のルチンの原料となる薬用植物で、薬用に栽培されているが、場所により逸出して野生化している。根茎は地中をはい、間隔をおいて塊状になる。茎は直立し高さ50～100cm、円柱状で中空。下部は紅色を帯び平滑、無毛、上部では縦の条がある。葉は互生、三角形で、下部の葉は円みがあり長さ5～15cm、幅5～18cm。9～10月に茎上部の葉腋から花茎を出し先にそばに似た白い花を密につける。果実は3稜形でそばに似る。原産地の地方ではそば粉の原料として栽培されるといわれる。

〔生活型〕 H R₂₋₃ D₄ b



ツルノゲイトウ〔ヒユ科〕*Alternanthera sessilis* DC.

1～越年草。生育期間は1～10月。

世界の熱帯地方に広く分布し、わが国では沖縄に古くから帰化していたが、最近では関東でも見られるようになり、暖地の路傍や川岸、畑地などに生育する。茎はよく分枝して地面をはい、節間から根を出し、四方に広がって大きな株になり、茎の長さ30～100cmにも達する。茎は円柱形で節間に2条の毛列があり、節部には縮毛がやや密にある。葉は対生。葉身は長楕円状皮針形～楕円状皮針形で長さ2～5cm、幅7～18mm。3～8月に花が咲くが亜熱帯では通年見られる。花は球状の頭状花で葉腋に単生または2～3個つき白色。

〔生活型〕 Th, Th(w) R₅ D₄ b

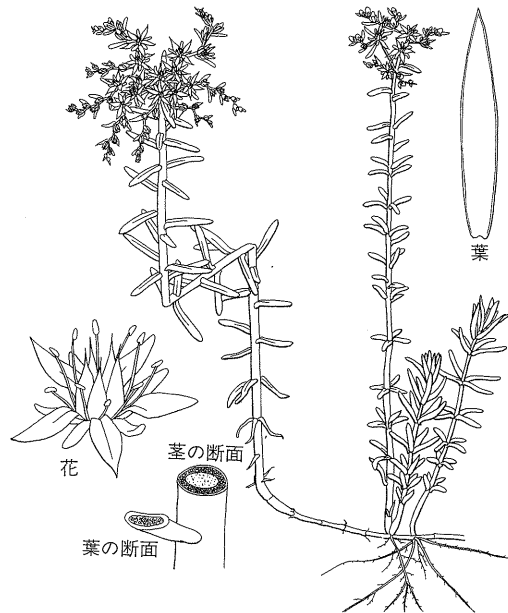


メキシコマンネングサ〔ベンケイソウ科〕 *Sedum mexicanum* Britt.

夏緑性多年草。成長期間は4～10月。

メキシコでの栽培品が園芸植物として渡来し、園芸用に植えられていたが逸出し野生化して、最近では都会地周辺の路傍やあき地、川の土手などにしばしば群生しているのが見られる。種子とはふく茎で繁殖し、茎は直立して高さ10～25cm、多肉質で円柱形。花のつかない茎の葉は普通4輪生、ときに3～5輪生。花をつける茎の葉は互生。葉は円柱状の線状楕円形、長さ12～25mm、多肉質。5～6月に花茎の先に集散状でかさ形のやや大きい花序をつくり、枝が水平に開いて、多数の黄色の花をつける。他のマンネングサの仲間とは葉が4輪生で円柱状の点で区別できる。

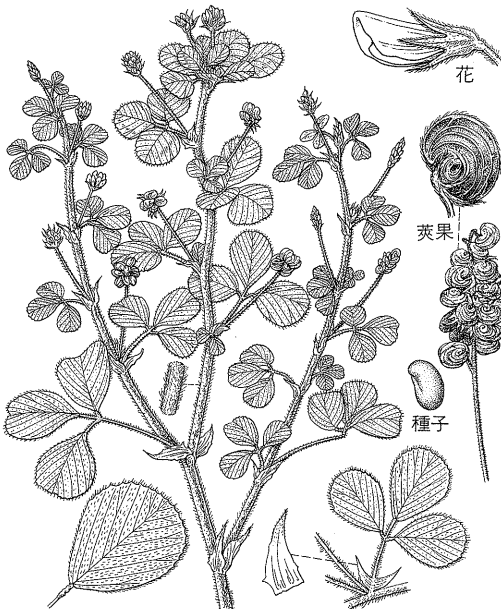
〔生活型〕 Ch R₄ D₄ P-e

コメツブウマゴヤシ〔マメ科〕 *Medicago lupulina* L.

1～越年草。生育期間11～8月。

ヨーロッパ原産で江戸時代に渡来したといわれ、牧草として栽培されたが、逸出して野生化し、沖縄や九州など暖地では路傍や畑地、あき地などに群生しているのが見られる。茎は基部で分枝して叢生し、高さ40～60cm、円柱状で白い伏した毛がある。葉は葉柄があり、3個の小葉からなる3出複葉、基部に托葉がある。小葉は広倒卵形、長さ1～1.5cm、幅6～8mm、上半分に鋸歯があり、表裏ともに白い毛がある。2～6月に葉腋から花軸を出し、総状花序をつけ、黄色の花を多数密につける。莢果は半旋回の形で、ウマゴヤシの仲間のように刺はない。

〔生活型〕 Th, Th(w) R₅ D₂ b

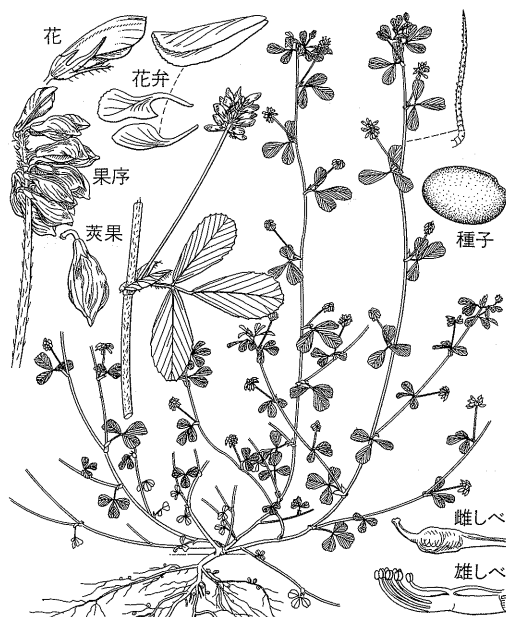


コメツブツメクサ〔マメ科〕 *Trifolium dubium* Sibth.

1年草。生育期間4～10月。

ヨーロッパおよび西アジア原産。路傍やあき地、芝生などに見られ、しばしば群生するので芝生にはえると厄介な雑草となる。茎の基部でよく分枝し、ほふく状になって地表に広がり、上部は斜上または直立し、高さ20～40cm、上向きの軟毛を散生する。葉は短い葉柄があり3小葉からなる3出複葉、基部に托葉がある。小葉は狭卵形、縁に小数の低い歯牙があり、長さ7～8mm、幅3～4mm。5～8月に葉腋から花軸がでて、先に5～20個の黄色の花をつける。花は長さ3.5～4mm。莢果は倒卵形で中に1個の種子がある。

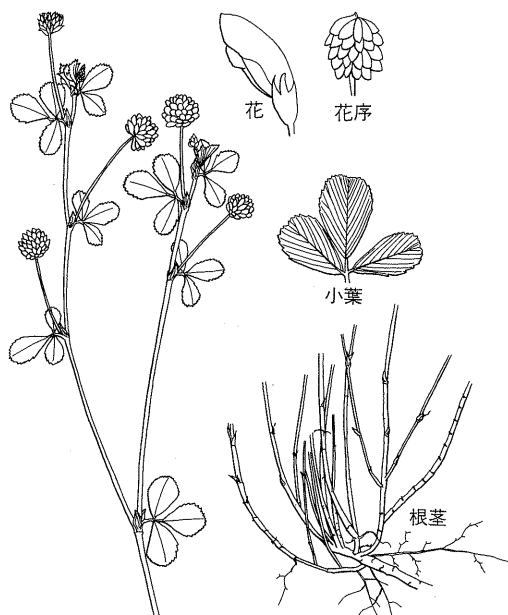
〔生活型〕 Th R₅ D₄ b


クスダマツメクサ〔マメ科〕 *Trifolium campestre* Schreb.

1年草。生育期間4～10月。

ヨーロッパ原産。1943年(昭和18年)久内清孝氏が横浜で発見し、ホップツメクサの和名をつけたという記録があるが、最近では各地の路傍やあき地、草地などでよく見られる。茎は基部でよく分枝して叢生し、高さ20～40cmになる。葉は互生、短い葉柄があり、3小葉からなる3出複葉。基部に托葉がある。小葉は倒卵形、長さ約1cm。上半分の縁に鋸歯がある。7～8月に葉腋から側枝が伸び、先に20～50個の黄色の花が球状に集まる。この花穂の形がクスダマを思わせるのでクスダマツメクサと名付けられた。コメツブツメクサに似ているが、本種は花穂が大きいためで見分けられる。

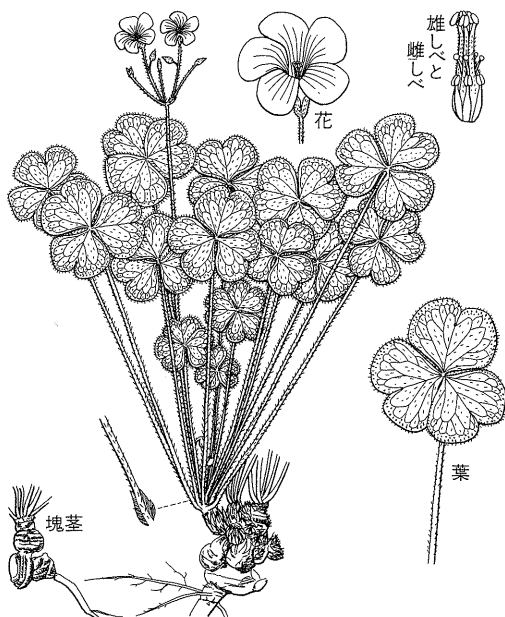
〔生活型〕 Th R₅ D₄ b



イモカタバミ〔カタバミ科〕*Oxalis articulata* Savigny

常緑性多年草。成長期間はほぼ通年。

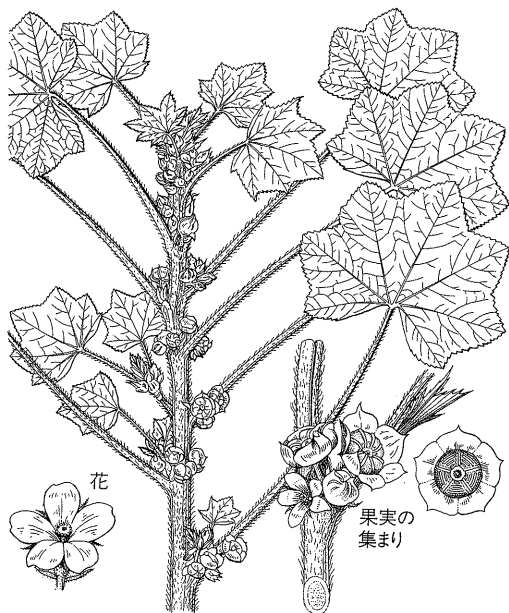
南アメリカ原産で太平洋戦争後に渡来した。現在は本州中部以西のあき地や路傍に見られる。花がきれいなのでもともとは園芸植物として入ってきて栽培されたが、それが逸出して野生化した。葉は総て根生で長さ8～10 cmの葉柄の先に3小葉をつける。小葉は倒心形、縁に毛がある。花は春と秋2回咲き、淡紅色。全体がムラサキカタバミに似るが、本種は雄しべの葯が黄色。ムラサキカタバミは雄しべの葯が白色で、地下に鱗茎ができて繁殖するが、本種は名前のとおり地下に芋状の塊茎があり、そこに子芋ができて繁殖するので掘取って見ると判別できる。
〔生活型〕 G R₅(b) D₄ r

ウサギアオイ〔アオイ科〕*Malva parviflora* L.

1年草。生育期間4～10月。

ヨーロッパ原産。暖地の畑地や路傍、あき地によく見られ、しばしば群生する。茎は直立または斜上して高さ20～50 cm、普通は毛があるが無毛のものもある。葉は互生、長い葉柄があり、葉身は腎臓状円形で5～7に浅く裂け、縁には鈍い鋸歯がある。5～6月に葉腋に花が集まって咲く。花は径6～8 mm、白色でわずかに紅色を帯びる。果実は扁平で径5～7 mm、約10個の分果に分かれる。がくは大きくなって残り果実の外側に広がる。全体は観賞用に植えられるウスベニアオイに似ているがこちらは花が大きく、淡紅色なので判別できる。

〔生活型〕 Th R₅ D₄ e

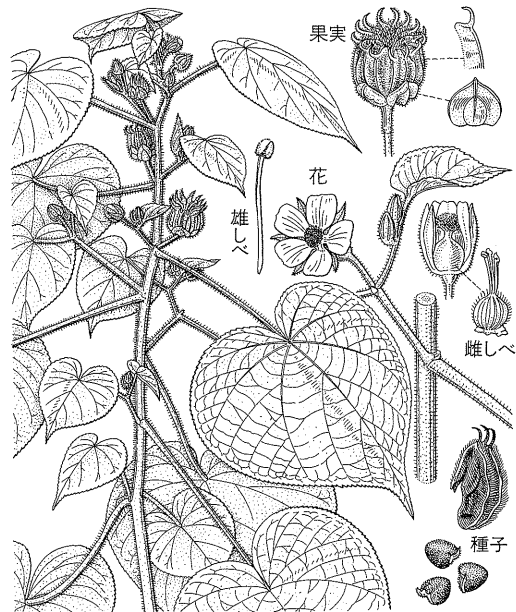


イ チ ビ (キリアサ)〔アオイ科〕 *Abutilon theophrasti* Medik.

1年草。生育期間4～10月。

アジア、北アメリカ原産。わが国には茎の繊維をとるために古くに渡来し、繊維作物として栽培されていたが、最近は雑草化してあき地や畑地にかなり見られるようになった。(中国では強害草)。茎は円柱状で直立し、高さ0.5～2 m。全体に短い軟毛がある。茎の皮は丈夫で容易には切れない。葉は葉柄があり互生、心臟形で先が尖り長さ8～10 cm、両面特に裏面では軟毛が密生し、さわるとビロード状の感じがする。7～8月に葉腋に花柄のある径2 cm 位の黄色の花を2～3個つける。果実は半球形で径約2 cm。外側に毛が密布し、先端には角状の突起がある。

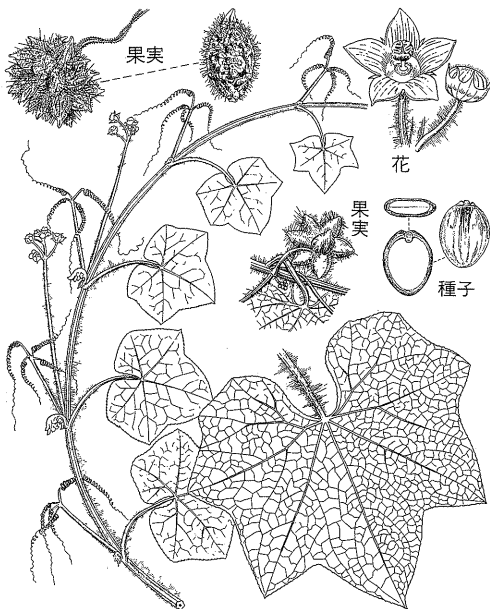
〔生活型〕 Th R₅ D_{2,4} e

アレチウリ〔ウリ科〕 *Sicyos angulatus* L.

1年草。生育期間4～10月。

北アメリカ原産。川原や河川敷、あれ地、土手などやや湿気のある腐植土を好み、群生して他物をおおうようにして繁茂する。茎はつるになって伸び、よく分枝して長さ数mになる。縮れた軟毛を密生し、葉と対生して先が3～4に分枝した巻ひげつけて他物にからみつく。葉には長い葉柄があり大きく掌状に5～7浅裂して縁に浅い鋸歯があり、長さ幅ともに15～20 cm。葉の表面に小突起が散生して著しくざらつく。7～8月に葉腋に花序を出し、黄白色の花をつける。花柄には軟毛と腺毛がありねばつく。果実は広卵形、柔らかい刺と毛が密生し、中に1個の種子がある。

〔生活型〕 Th R₅ D₄ ℓ



タテバチドメグサ〔セリ科〕*Hydrocotyle vulgaris* L.

常緑性多年草。成長期間通年。

ヨーロッパ原産。関東以西の一部地域の用水路やあれ地、芝生などで見られる。地下茎が横にはい、ところどころから根と葉を出す。葉は単立し、長さ5~15 cmの長い葉柄があり、葉身は楕状につき円形で径1~3.5 cm、縁にあらゐ鋸歯があり、やや厚みがあって表面に強い光沢がある。全体無毛。4~7月に葉柄基部から高さ5~7 cmの花軸を出し、散形花序をつける。花序は輪生状に5段につき、1段に12個内外の白色の花をつける。果実はほぼ円形で偏平。葉が楕状につくことからこの名がある。

〔生活型〕 Ch R₄ D₄ p



オオフサモ〔アリノトウグサ科〕*Myriophyllum brasiliense* Camb.

常緑水生多年草。成長期間ほぼ通年。

南アメリカ原産。池や沼、河川の岸辺、水田などで見られ、茎で繁殖するので大群落をつくる。九州地方では水田の雑草となっている。茎は円柱状で太く、径4~7 mm、泥中または水中を分枝しながらほふくし、先が斜上して、長さ2~5 m、多くの節があり節から根を出す。茎を切断して見ると車輪状の膜がある。葉は6~7個輪生し、長さ2~4 cm。葉身は糸状の羽状に全裂する。葉は水面上に出た茎にだけつき、水中の葉は枯れて節から根が出る。6~7月に葉腋に微小な白い花をつける。雌雄異株であるが、わが国のものは雌株だけである。

〔生活型〕 HH R₁₋₂ D_{1,4} e

